

『人権一般に関する間接的指導のタイプ』

上三川町立上三川中学校第2学年家庭科学習指導案

1 単元名 身近な消費生活と環境

2 単元の目標

- (1) 自分や家族の消費生活に関心をもち、消費の在り方について見直そうとするとともに、自分の生活と環境とのかかわりに関心をもち、自分の生活に生かそうとする。(生活や技術への関心・意欲・態度)
- (2) 環境に配慮した消費生活について工夫することができる。(生活を工夫し創造する能力)
- (3) 生活に必要な物資・サービスについて情報を収集・整理し、適切な選択、購入及び活用ができるとともに、環境に配慮した消費生活の実践ができる。(生活の技能)
- (4) 消費者の基本的な権利と責任や販売方法の特徴と適切な選択、購入方法を理解するとともに、環境に配慮した物資の活用と廃棄の仕方を理解している。(生活や技術についての知識・理解)

3 単元について

「身近な消費生活と環境」では、消費や環境に関する実践的・体験的な学習活動を通して、消費生活と環境についての基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに、消費者としての自覚を高め、身近な消費生活の視点から持続可能な社会を展望して、環境に配慮した生活を主体的に営む能力と態度を育てることをねらいとしている。

ここでは、物の選び方や買い方の授業ではなく、様々な価値の比較や実習・体験を通して、生徒が主体的に価値判断をし、生活をよりよくしようとする態度の育成を目指した。

4 人権教育との関連

消費生活は、それぞれ家庭や個人によって異なっていることを理解した上で、お互いのよさを認め合う気持ちを持って取り組ませたい。

5 指導計画（総時数8時間）

I ステージ 自分の消費行動をみつめよう

- ① 私は「○○○」の意識を持った消費者になりたい

1時間【本時】(単元ガイダンスとして)

II ステージ 環境の視点から消費生活をよりよくしよう

- ② エコ生活を体験しよう(ごみ、排水、エネルギーに注目して)

3時間

- ③ 目指せ、買い物名人<環境編>

1時間

III ステージ かしこい消費者になろう

- ④ 消費者トラブルの疑似体験をしよう

1時間

- ⑤ 情報化社会に生きる消費者の心得

2時間

6 本時の指導

- (1) 題目 私は「○○○○」の意識を持った消費者になりたい
- (2) 目標 自分の消費行動の特徴を確認し、求められている消費者行動の背景を理解し、自分が目指したい消費者像を述べることができる。
- (3) 人権教育上の視点

① 自分が商品の価値をどのように判断しているかが言える。	(知識理解)	発表・ワークシート
② 求められる消費行動をふまえ、生活の場面で目指したい消費行動を説明できる。	(関心・意欲・態度)	発表・ワークシート

(4) 指導の方針

本時は、「D身近な消費生活と環境」の単元「ガイダンス」と位置づけた。ここでは、商品の選び方ではなく、消費行動の決め手となる商品情報の読み取りと「価値づけ」に着目させ、消費者の在り方を見直す機会にしたいと考えた。また、自分の消費行動の特徴と求められる消費行動の背景を理解することで、「消費者としての責任や自覚」を高めさせたい。特に、商標や製造日の偽装や冷凍餃子の農薬混入など、安全・安心とはいえない問題や情報化社会における商品流通の変化とそのトラブルを示し、「消費者としての知識と意識」を自らが正しく身につける必要性を知らせ、自分や家族の消費生活への関心を高めたいと考えた。消費者として、正しい知識や判断力を身に付け、トラブルに巻き込まれないよう行動しようとする意識をもたせたい。

(知性) (判断力) (実践力)

学習の流れ	指導の工夫と評価の留意点	消費者としての自覚を高める視点
	<p>発問1：消費者は「どのように商品を見るか」考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品情報のない3種類のきゅうりを「△△だから○○ではないか」の形式で「どのような商品か」グループで意見交換をさせる。 <p>見た目 数 価格 その他</p> <p>◎自分と異なる意見も最後まで聞き、いろいろな考えが出ることを望ましいと理解させ、活動させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品をより正しく理解するために、知りたい情報を質問させる。 <p>産地 価格 品種・品質 味 生産者・生産方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 知り得た情報から、商品それぞれの「価値」を「キャッチコピー」としてまとめる。 A 形はまっすぐ、見た目が一番 B 曲がっていても、味は同じ C たくさん入って、お買い得 <p>発問2：消費者は商品情報から「どんな判断をするか」考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャッチコピーを参考に、商品の見方や判断が変わることに着目させる。 中学生の自分は「どんな見方で商品を判断しているか」を考えさせる。 <p>評価基準① 自分が商品の価値をどのように判断しているかが言える。</p> <p>「概ね満足できる状況」 商品の品質や生産地などの「見えない情報」で判断したり、用途に応じた柔軟な判断をしている。</p> <p>「概ね満足できる状況に達しない生徒への支援」 見た目などの「見える情報」だけでなく、「見えない情報」も考えさせ助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別指導では、実物だけでは分からず自分が知りたいと考えた情報が、自分の商品の見方であることを助言する。 <ul style="list-style-type: none"> 消費者の意識調査の資料等から、消費行動の見直しが課題であることを気づかせたり、一人一人の消費行動が市場や商品開発に影響するため、消費者としての責任や正しい判断が求められていると認識させたりできるようにする。 「自分は消費者である」という自覚をもつことが、意識を高めるために必要であると理解させる。 <p>学習のめあて：私は「○○○」の意識を持った消費者になりたい</p> <p>※生活場面を想定して、「今まで△△していたが、○○したい」と考え、発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物や資源とのかかわりの改善や工夫にも目を向けさせる。 <p>評価基準② 求められる消費行動をふまえて、生活場面で目指したい消費行動を説明できる</p> <p>「概ね満足できる状況」 自分の消費行動の改善や、環境への配慮の裏づけや効果を加えて、心がけたい消費行動を具体的に述べるができる。</p> <p>「概ね満足できる状況に達しない生徒への支援」 消費行動を生活の場面を想定し、心がけたい消費行動が述べられるように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 補説では、消費行動は選択、購入だけでなく、使い方・保管・管理も含めることを伝える。 単元学習の目標となるキーワード「もったいない」の意味を示す。 <ul style="list-style-type: none"> 消費学習の場と、新たに家庭経済や金融に関する学習も加わることを知らせる。 	<p>疑問</p> <ul style="list-style-type: none"> 今の自分の考えで判断させる。 <p>自分はこの場面ならこう考える。</p> <p>思考</p> <ul style="list-style-type: none"> 見方や考えを変えて、多様な考えを引き出す。 <p>自分が知りたいことを出してみよう。</p> <p>気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活に生かせるかの判断や価値の理由づけをさせる。 <p>自分の行動や判断で、重視していることって何だろう。</p> <p>提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 求められる消費者としての意識を理解し、自分の行動を生活の場面で具体的にイメージさせる。 <p>自分がこれから意識していきたいことは何だろう。</p>

2年 組 番 氏名

(1) 消費者は「どのように商品を見るか」考えよう。

- ① あなたは提示された商品をどう見ますか？
 - ・「△△だから〇〇ではないか」の形で意見交換しよう。
 - ・いろんな「〇〇」（観点）を考えよう。
- ② 意見交換した観点を班でまとめよう。

A	B	C
---	---	---

情報

(2) 消費者は商品情報から「どんな判断をするか」考えよう。

- ・あなたは提示された商品を、どのように判断しますか。

A	B	C
---	---	---

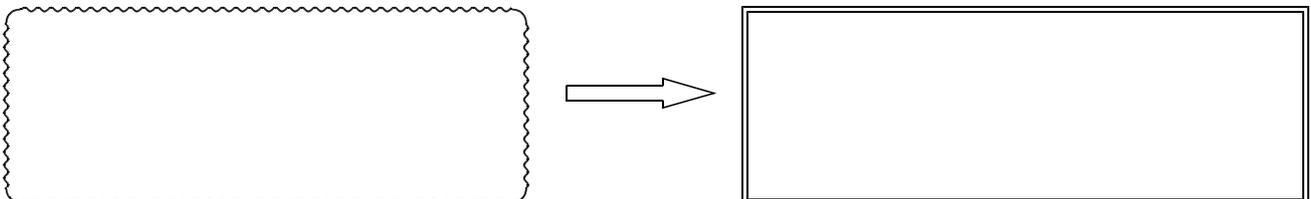
(3) 資料を見て考えよう。

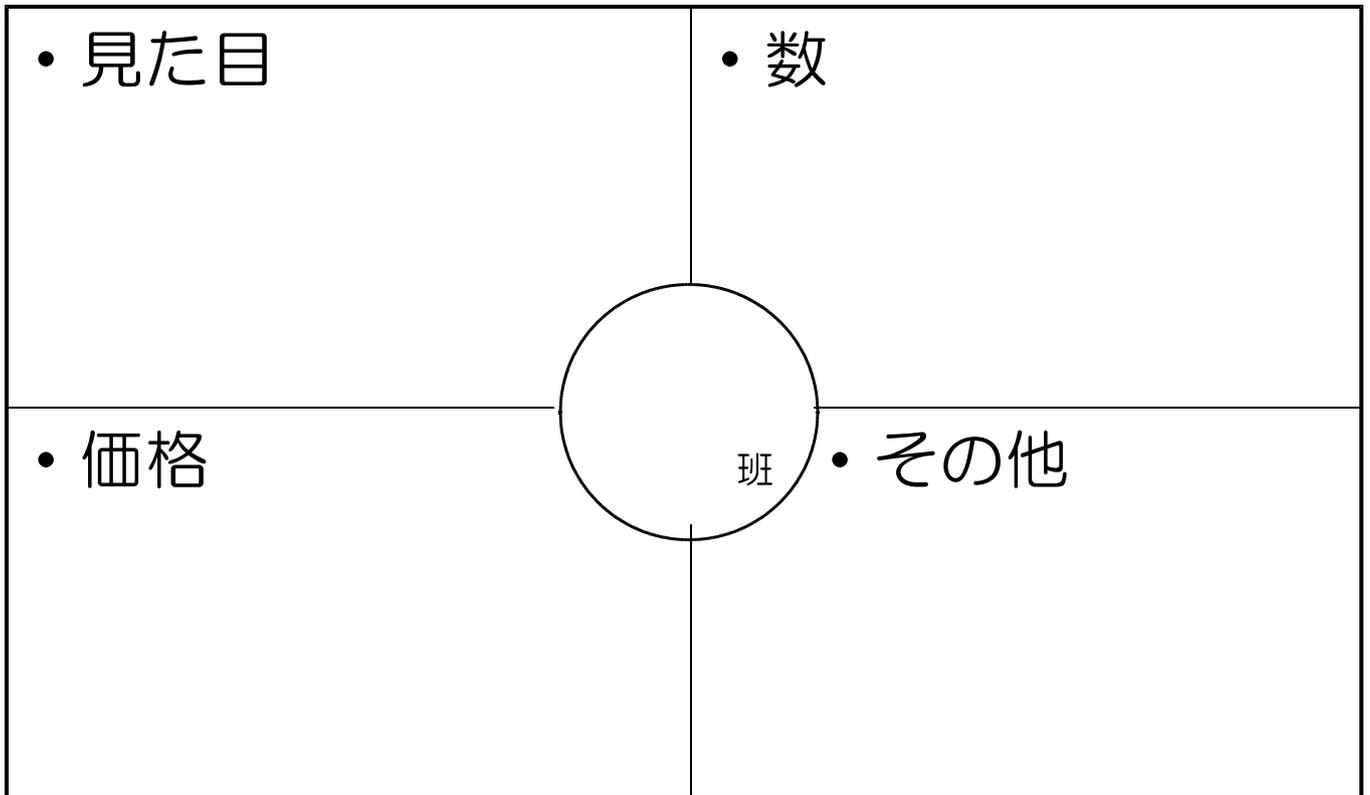
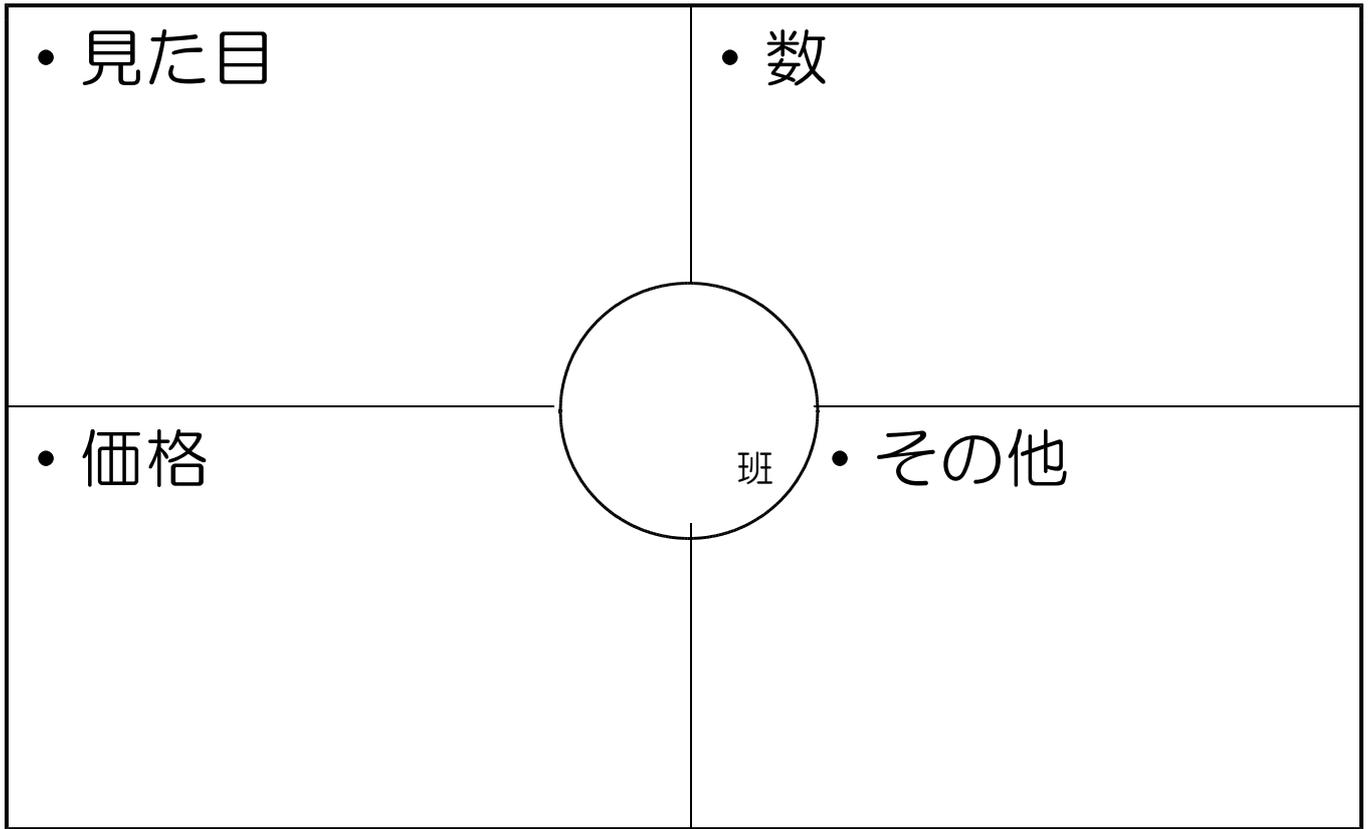
- ・自分の消費行動の仕方に関心を持っていますか？
- ・自分の商品の見方や選び方は、正しいと思いますか？
- ・社会が求める消費者の知っていますか？
- ・今の意識で、自立した生活ができますか？

(4) これからの自分の消費行動を考えよう

学習課題： 私は「〇〇〇」の意識を持った消費者になりたい。

- ・今まで「△△」していたが、「〇〇」したい という形で考えよう。
- ・これまでの自分の消費行動を見直して
- ・自分が持ちたい「消費者としての意識」





【板書計画】

(1) 消費者は「どのように商品を見るか」考えてみよう。 (2) 消費者は商品情報から「どんな判断をするか」考えてみよう。

情報なし 「〇〇だから△△ではないか」

意見 意見 意見

写真A 写真B 写真C

袋入りりんご 単品りんご 雹害りんご

キャッチコピー キャッチコピー キャッチコピー

情報あり

産地

価格

品種・品質

味

生産者・生産方法

商品情報

発表された生徒の意見

掲示資料 掲示資料

(3) 学習のめあて

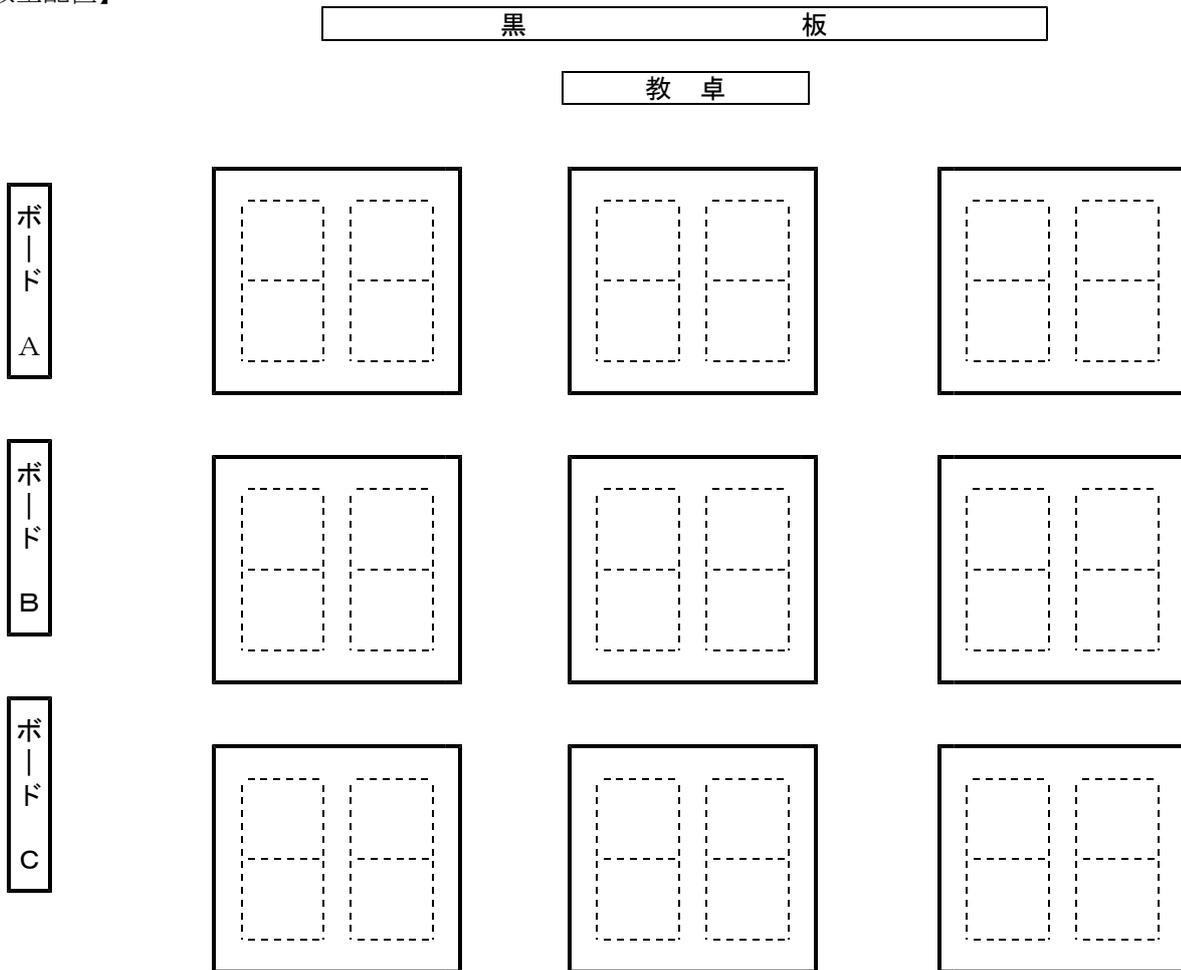
私は「〇〇〇〇」の意識をもった消費者になりたい

「今まで〇〇していたが、△△したい」

もったいない

- 1 物的損失を惜しむ気持ち
- 2 形にあらわれないものを大切にする気持ち
- 3 限られた資源を有効有意義に使う気持ち

【教室配置】



○ 6月の教科部会では、一条ブロックの先生方に大変お世話になりました。授業研究会でのご意見を元に、指導案の改訂版を作成しました。移行に向けて参考にしてください。

(1) 指導計画について

8時間をⅢつのステージで組み立てました。

指導計画（総時数8時間）

Iステージ 自分の消費行動をみつめよう

① 私は「〇〇〇〇」の意識を持った消費者になりたい

1時間（単元がダブとして）【本時】

IIステージ 環境の視点から消費生活をよりよくしよう

② すぐできるエコ生活を体験しよう（ごみ、排水、エネルギーに注目して）

3時間

③ 目指せ、買い物名人<環境編>

1時間

IIIステージ かしこい消費者になろう

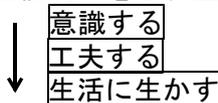
④ 消費者トラブルの疑似体験をしよう

1時間

⑤ 情報化社会に生きる消費者の心得

2時間

ここでは、物の選び方や買い方の授業ではなく、様々な価値の比較や実習・体験を通して、生徒が主体的に価値判断をし、生活をよりよくしようとする態度の育成を目指しました。



Iステージ：消費行動の見直しから、消費者としての自覚を高めさせる。

IIステージ：実習を通して、環境を視点とした消費行動の工夫をさせる。

IIIステージ：消費者としての身についた知識を、将来に生かそうとする。

※ 充実した授業展開や他の内容と関連させた授業、さらに家庭実践につなげるためにも、1時間目（導入）は大切です。また、教師自身の「消費者としての意識や姿」が、題材に反映されると思います。

(2) 指導案について

研究会用指導案の形式や書き方（フローチャートや評価）は、これをベースにします。（途中で変わるかもしれませんが）

指導案に「**消費者としての自覚を高める視点**」を加えました。（以下、太字表記の部分）

※前回は、「消費者としての自覚を高めさせるための工夫」でした。

ここには、生活実践へと導く「自覚」を高めるために「教師が意図する生徒の姿」を「視点」として明記し、見取りに役立てるためにどのような働きかけが有効かを考え、明記してあります。

流し方の説明

◆ 20分：商品の見方を確認をさせたり、価値の理由づけをさせることで、自分の消費行動の特徴に気づかせる。商品は「りんご」でなくてもよいが、できるだけ実物であることが望ましい。ここは商品の説明に深く入り込むと時間が足りなくなるので（あくまできっかけ）、あっさり、でも的確に流す。

- ① **疑問** 消費者は「どのように商品を見るか」考えよう。← **自分はどう考える。**
 - ・商品を「どう見る？」や「どう見える？」を今の自分の考えで判断させる。
 - 「〇〇だから△△ではないか」
- ② **思考** 情報から商品の特徴をまとめよう。← **自分が知りたいことを出してみよう。**
 - ・見方や考え方を変えて、多様な考えを引き出す。
 - ・異なる商品情報からキャッチコピーを作る。
- ③ **気づく** 消費者は商品情報から「どんな判断をするか」考えよう。← **自分の行動や判断で重視していることって何だろう。**
 - ・生活に生かせるかの判断や価値の理由づけをさせる。
 - ・商品の見方や知りたい情報が、自分の価値判断の基準となることに気づかせる。
 - 例) 値段、品質、生産者(地)、味

◆ 15分：社会的背景と求められる消費行動を示し、消費者としての知識と意識を正しく身につける必要性を知らせる。ここでは、生徒の意識を「どんでん返し」させる効果的な資料がよい。教師がどんな資料を示し、どんな話をするかで、生徒の意識の変化度が違う！

④ **知る** 求められる消費行動の背景を理解しよう。 ← **今までの自分の消費行動や判断でいい？
もっと意識を高めなくては…**

- ・求められる消費者としての意識を理解し、自分の行動を生活の場面で具体的にイメージさせる。
- ・自分の価値の確認と社会で起こっている消費者トラブルや偽装表示問題などから、本当に販売側を信用してよいか、正しい消費行動をしているかなど再認識させる。また将来、自分が車や不動産を購入する時にも、今と同じ意識で大丈夫なのかもなげかける。さらに、環境についての配慮も分っているつもりでも実行できていない現状を知らせ、もっと消費者としての意識や目をしっかり持つ必要があることを告げる。
例) 消費トラブル、表示偽装、環境に対する意識など

◆ 15分：求められる消費者としての意識を理解し、これからの消費行動をイメージさせる。
「もったいない」をキーワードとし、今後の学習に見通しと意欲を持たせる。

⑤ **提案** 自分の消費行動の目標を設定しよう。 ← **自分がこれから意識していきたいことは何だろう。
(意識しなければならないことは)**

- ・学習のめあてを提示する。私は「〇〇〇〇」の意識を持った消費者になりたい。
- ・今までの自分の消費行動を振り返らせながら、目指したい消費行動の記入をさせる。
生徒が目指す消費行動は多様になるが、選択や購入の場面での意識ばかりでなく、使用・保管・管理も消費行動である事を知らせ、共通したキーワードとして「もったいない」の言葉や基本精神などを伝えながら、本時のまとめを行う。さらに、単元学習のあらましを知らせることで学習に見通しと意欲を与える。